

編集作業から

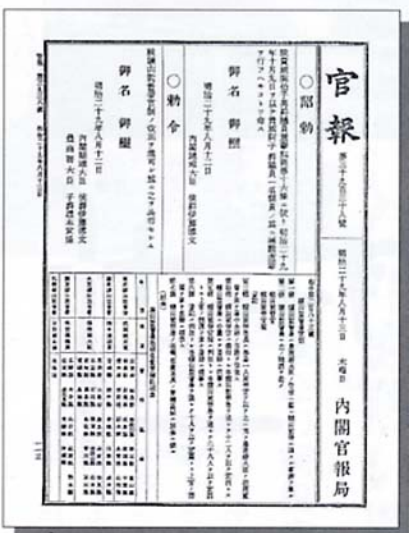
現在町史編集室では、戦前発行の「官報」から、西原に関する記事を抽出する作業を進めています。

「官報」は、憲法改正や各種法律・政令・条約などの官公務を、国民に広告するための機関紙であるといえます。明治十六年に第一号が発刊され、大正期、昭和期（十七年まで）にも引き続き刊行されました。

もちろん現在でも発行・全国販売されており、県立図書館などで閲覧できます。みなさんも、機会があれば読んでみては？

戦前の「官報」に掲載されている西原関係記事の中には、産業組合登記や製糖工場財団登記、糖業試験場技師の辞令など産業に関するものがあり、現在編集中の「産業編」では、チェックを要する資料といえます。

そのほかにも、叙任及辞令では、西原出身者が戦死し、遺族に金一封が出たという記事や、大正三年の西原村信用購買組合の登記記事では、監事に当時大城式製糖機を発明した大城助素（当時村議会議員）が当選しています。こういった記事には、字名・地番・氏名が明記されており、西原の人物をたどることができます。



また、大正二年には、西原報徳社が法人として登記されました。これは、明治末ごろから全国的に二宮尊徳の教えに基づいた教化運動が盛んになり、沖縄県下各地で、陰徳・積善・節儉を实践する報徳社が結成されました。その中でも西原報徳社の活動は盛んで、新聞でも再三取り上げられました。西原報徳会の事務所は尋常高等小学校にあり、その教えは学校教育にも定着していったのです。

これらの官報記事から、当時の政府の動きと西原のつながりがみえてくるといえます。

とはいっても、膨大な官報資料は沖縄関係の記事だけでも約十萬枚。それを一枚一枚めくる地味な作業は、はじまったばかり。それでも、これからでてくる記事をみなさんにお伝えする日を楽しみに、日々作業にいそしんでおります。ふっつ。